

高信頼性ICタグ

書き込み型メモリは消える宿命

PCや大切な機器のメモリの寿命は長くて10年でしょうか。その前に機器としての価値が無くなるということもあるかも知れません。ただ大事に機器を使っている方も世の中たくさんいますので、この発想は少しメーカーの独断が感じられます。

さて、大事なプラントに書き込み型メモリのICタグを適用することはどうでしょうか。残念ながら、最悪の選択肢の一つになりそうです。10年で、メモリが消える(5年でも消える可能性があるという方が正確ですが)ものをシステムに組み込むことは出来たら避けたいものです。

信頼性たとえば、寿命を2倍保障するだけでも、半導体メーカーは膨大な投資やロット管理など運用コストを必要とするため、なかなか踏み込めません。

システム設計者の立場で言えば、大事なシステム設計では、ICタグでも選択理由を明確に記録して、現場から幹部までしっかり同意をとっておく必要があるように思います。

標準品だからなんとかかなるではあまりに安易すぎるように思います。本質に迫っていません。宇宙ロケットや飛行機の部品は決して標準品のみの選択ではありません。